

運動から政党へ

—スペインのポデモス効果—

中島 晶子

東洋大学国際地域学部准教授

政党ポデモス (Podemos、スペイン語で‘We Can’) は、2014年1月の立ち上げから2年余の新興政党である。スペインでは1980年代以降、中道右派の国民党と中道左派の社会労働党が国政で得票率8割強を占める二大政党制が機能してきた。ポデモスは社会権の保障や再分配の急進的な主張を掲げ、誕生から約4か月後の欧州議会選挙で得票率7.98% (5議席) を獲得し、一躍脚光を浴びた。それから約1年半後の2015年12月の総選挙では、下院350議席中42議席、連携政党を合わせ65議席の会派となった。ただし、総選挙から約4か月を経た本稿執筆時点 (4月14日) でまだ政権は発足していない。過半数を制した政党がなく連立交渉が難航しているため、6月に再選挙となる可能性がある。本稿はポデモスの登場した背景と新しさ、主張や組織、政党アリーナの変化を検討し、現在までの政治的影響や含意を考察する。

ポデモスの登場

15-M運動¹と新しい空気

15-M運動は、2011年5月にスペイン各地で始まった既存システムに対する一連の抗議運動である。債務危機のなか2010年5月に当時の社会労働党政権が緊縮政策に転じ、景気と失業の悪化、公共サービス削減により貧困が深刻化した。翌年、若者らがSNSで政治経済改革を訴え、5月15日 (15-Mは統一地方選1週間前の同日のスペイン語表記) の動員を呼びかけると、各地で人々が結集した。マドリードではデモ後もソル広場に残った人々から自然にキャンプ (占拠) が始まり、これが各地に広まっていく。広場は15-Mの象徴となり、政策別部会での討論や近隣の交流を生む「出会いの場」として、市民社会に多様な集団や運動、プロジェクトを生み出すルーツとなった。

例えば、15-Mに参加した「住宅ローン被害者の会」(PAH) の「立ち退きストップ」運動² は、15-M参加者の協力を得て活発化した (中島2013)。また、マドリードの医療関係者が公的医療の民営化撤回を求めた街頭デモとストライキは、白衣姿で通りが埋まる光景から「白い波」と名付けられ、他の都市にも広がった。マドリードで中学教師が始めた教育予算削減に反対する抗議行動は、公教育全体の関係者を全国的に動員するまでになり、参加者が着たスローガン入りTシャツの色から

なかじま あきこ

早稲田大学大学院社会科学部研究科博士後期課程単位取得退学。博士 (学術)。専門分野は、比較政治、EU地域研究。欧州連合日本政府代表部専門調査員などを経て現職。著書に『南欧福祉国家スペインの形成と変容—家族主義という福祉レジーム』(ミネルヴァ書房、2012年)、『比較福祉国家—理論・計量・各国分析』(ミネルヴァ書房、2013年)、『ヨーロッパのデモクラシー (改訂第2版)』(ナカニシヤ出版、2014年) など。

「緑の波」と名付けられた。

この状況に新たな政治文化の息吹を感じ取ったのが、マドリード・コンプルテンセ大学 (UCM) の教員グループである。後にポデモス党首となるパブロ・イグレスィアス・トゥリオン (1978年生)、スポークスマンとなるイニゴ・エレホン (1983年生)、ファン・カルロス・モネデーロ (1963年生) の3名の政治学者が中心である。ラテンアメリカについて知見のあった彼らは、スペインよりも早くネオリベラルな政策に苦しんだ同地域の経験は参考になると考えていた。モネデーロは2005～2010年にベネズエラのチャベス政権の政治顧問³を務め、エレホンは博士論文でボリビアのMASとモラレス第1期政権を扱っていた。

彼らは15-Mをどう見たか。15-Mの「広場」は代表されない人々を象徴的に作り出し、人々とエリートとの間の境界を浮かび上がらせた。エリートを非難する雰囲気生まれ、政治について発現したい意識はあるが、そのための「空間」がないことが明らかになった。そこでエレホンの発想から、直接人民に呼びかけて体制を覆すポピュリズムの手法を、ペロニズムを実体験したラクラウの理論に沿って取り込むのである (Iglesias 2015a)。ポピュリズムは、社会を究極的には2つの対立的なグループ、「純粋な人民」と「不純なエリート」に分かれるものと考え、政治は「一般意思」の表現であるべきと主張する (Mudde 2004:543)。ラクラウはグラムシのヘゲモニー論や言説分析に依拠し、空虚な記号表現に適した意味内容を与えることがヘゲモニーを獲得する条件であると論じた (Laclau 2005)。

こうしたコミュニケーション理論を実践する場となったのが、政治討論番組「ラ・トゥエルカ」である。イグレスィアスとモネデーロが2010年にオルタナティブ・テレビで始めたこの番組は、複雑な事象をシンプルな表現に翻訳するテクニック、政治キャンペーンやリーダーシップ、スポークスパーソンの手法を彼らが学ぶ学校になった (Errejon 2014, Iglesias 2015)。同番組はニッチな支持層を開拓し、やがて司会のイグレスィアスは主流チャンネルに

も定期的に出演するようになった。こうした期間を経て、2014年1月に知識人グループがポデモス運動を立ち上げる。

欧州議会選挙

ポデモスは、社会的なルーツが政党に先行するという常識に反し、選挙活動を通じて政治的アイデンティティ構築を試みた (Errejon 2014)。選挙用パンフレットには、メディアで知られたポニーテールにシャツ姿の若い大学教授、イグレスィアスの顔を掲載した。彼は、父方の姓までの呼称「パブロ・イグレスィアス」が19世紀の社会労働党創立者と重なることも手伝って、新興政党をアピールするうえで絶好の「記号」となった。さらに、左右の軸を超えて不満を持つ多数の人々に訴えかけるため、「デモクラシー対オリガーキー」、「市民対カースト」、「新勢力対旧勢力」の二分法を用いたのである。

ポデモスの選挙活動を支援したのは、15-Mの活動家たちである。政党の「反資本主義左翼」は、共産党を中心とする政党連合「統一左翼」よりも急進路線で、メンバーは個人として15-Mに参加していた。X党は、15-M活動家を中心に結成された情報通信技術に強い集団で、オンラインによる選挙プログラム作成など、市民参加のために各種ソフト⁴に関する技術援助を行った。これは、地域やテーマごとに設立されたサークル間や、ポデモス本部とサークル間の潤滑なコミュニケーションを可能にした。ポデモスやイグレスィアス個人のFacebook、Twitterの積極的な活用に加え、クラウドファンディングによる資金調達も導入した。さらに、先述のPAHや「波」など市民運動の指導者の多くもポデモスに参加した。

3月末から5日間のプライマリーで、イグレスィアスを筆頭候補者とすることを決定した。manifestoの主な内容として、①2011年に改正された憲法135条 (自治州の赤字と公債削減)の廃止、②年金支給年齢の65歳から60歳への引き下げ、③ベーシックインカム⁵の保障、④正統とみなされない債務の返済拒否、⑤君主制の廃止、⑥新憲法制定議会の開催、⑦地域の自己決定権、⑧妊娠中絶の

解放と公的医療によるカバー、⑦移民の国境監視の撤廃等がある。

欧州議会選挙前にポデモスはほとんどマークされていなかったが、第4政党として全54議席中5議席を獲得し、脚光を浴びることになった。しかしこの時点ではまだ組織化は十分でなく、欧州議会選挙後に2015年5月を見据えた変革がはかられることになる。

ポデモス内外の変化

「勝つ」ための戦略

ポデモスにとって欧州議会選挙は、国内向けのプラットフォームとして理想的な機会であった。スペインの選挙制度は市町村から国政までドント式比例代表制を採用しているが、都市部の区割りも極小である「多数代表バイアス」と、過疎地域の定数が人口の割に多い「保守バイアス」のため、新興急進勢力が成果を出すのは難しい。しかし、欧州議会選挙は全国区の比例代表制を採用している。

ポデモスのUCM教員グループは、翌年末の総選挙に向け、「勝つ」すなわち政権を担いうる多数派となることを目標に、そのための戦略に集中していく。2014年10月の党大会以降、この戦略は組織構造、言説、政策の各側面で明らかになった。

まず、組織については、強力なリーダーシップによる集権的構造にシフトした。幹部には他党党員資格との重複を禁じ、反資本主義左翼は解党してグループとして党内に統合され、イグレスアス周辺が主導権を固めて彼の周りで重要な決定を行うようになった。新しさや有権者感情からポデモスに「機会の窓」が開かれた間は限られると認識し、一挙に国政に参入するため「効率」を最優先したのである (Torreblanca 2015:163)。

言説や主張はあいまいにした。左派に支持者を限定しては多数派になりえないため、左右の図式には極力閉じ込められないよう、イデオロギーを前面に出さない。繰り返し発信する優先的なメッセージには、誤解されうるもの、関係者で支持が割

れるものは含めない。カタルーニャ独立のように厄介な問題は、不確定の未来に委ねる。君主制の是非や移民についてはほとんど触れず、世俗主義についても言及しない (Del Río 2015a)。さらに、NATO、ドイツ、トロイカなど海外勢力に対する国家主権を強調するかたちで、ナショナリズム的要素も加えた (Torreblanca 2015:154-155)。

政策も過激なものを取り下げた。年金支給年齢の引き下げやベーシックインカムは取り下げ、不当な債務は返済しないのではなく、債務減免を提案・交渉することに軟化させた。ただし、2015年末のマニフェスト394項目、憲法や法律の改廃リストからは、政策を穏健化したとは言い難い。

逆風

社会学調査センター (CIS) の支持政党調査では、ポデモスの支持率は2015年1月にピーク (23.9%) 7に達したのち、下降していった。その要因をみていこう。まず、上記の戦略シフトである。15-Mに由来する水平的なアソシエーションの文化とは逆方向への動きに、支持者離れが起きた。また、ポデモスの共同創業者で、15-Mのイデオログと目されたモネデーロの執行部辞任である。ラテンアメリカ諸国からの多額の顧問料受領の経緯をめぐり、主要政党やメディアに攻撃されていた。

加えて、ポデモスが支持を表明してきたギリシアの急進左派連合 (シリザ) 政権の悪評である。シリザが反緊縮政党として2015年1月総選挙で政権を発足した際、欧州左派の間には緊縮に苦しむギリシアに対し一定の共感もあった。しかし同政権による政治的空気を読まない交渉手法や、支援条件受け入れを問う抜き打ち的な国民投票の実施は、債権団のみならずEU域内の反感や不信を強めた。結局ギリシアは無策のまま厳しい条件で第三次支援を受け入れ、公約は果たされなかった。シリザは離党者が出て政権を維持できず、9月に解散・総選挙となった。スペインの主要政党は、このシリザの失態をポデモスに対する攻撃材料として利用したのである。

さらにはカタルーニャの分離独立問題とからみ、

ライバルが登場した。シウダダノス（‘Citizens’の意、以下略号C’s）である。カタルーニャ独立問題は債務危機と前後して再燃し、独立の是非を問う住民投票の実施をめぐる中央政府との摩擦が続いている。ポデモスは、カタルーニャの独立は支持しないが、地域の自己決定権を擁護する立場から住民投票の実施には賛成し、対応の詳細は「立憲プロセス」と呼ばれる不明確な将来に委ねるとする。

C’sは2006年にカタルーニャ・ナショナリズムへの反対と憲法擁護を主張し、アルベール・リベラ（1979年生）を党首として創立された。以降カタルーニャ域外で小政党と連合を形成し、2015年には活動を全国に拡大した。2015年地方選では各地で政権形成に協力して存在感を強めた。C’s自身は左右の軸で位置づけられることを拒否しているが、税の軽減や補助金の拡大、公的領域におけるエスニシティ表明の禁止（ムスリムのスカーフなどを含む）、不法移民の医療アクセス制限を含む政策から、中道右派のポピュリストとしてみなされている。C’sはポデモスが既成政党システムに空けた風穴に助けられ、二大政党に不満を持って変化を求めつつポデモスの主張にも納得しない有権者をひきつけるようになった。

ポデモスがもたらしたもの

スペイン政治は、体制移行以来かつてないほどの混迷状態にある。12月総選挙で、首位の国民党（123議席）、2位の社会労働党（90議席）、ポデモスおよび連携する地方政党（69議席、うち4名は独立会派）、C’s（40議席）と、左右両陣営に大きな旧勢力と小さな新勢力が相対する4党の構図が現れた。左右いずれの陣営も過半数に届かない。二大政党にC’sを加える大連立案は流れた。ポデモスは統一左翼も含めた左派連立政権を提案したが、社会労働党内では地方指導者たちがポデモスとの連立を断固拒否しており、社会労働党はC’sと先行して連立に合意した。ポデモスは、C’sの政策との相違を理由に連立参加を断っているが、党

内にはジュニア・パートナーとしての連立参加自体に反対もある。この連立交渉が長引く間に、ポデモス地方支部の分裂、連携していた地方小政党の自立化などの動きも生まれている。一方では6月再選挙の可能性を見越して、統一左翼を含む選挙連合である人民連合との連携が模索されている。

これまでのところ、ポデモスは何をもたらしたのであろうか。社会運動のエネルギーを政治的アリーナに持ち込み、市民社会のアソシエーションとしての政党を予感させた。政治社会で代表されていない人々を代表し、主流政党が取り上げないテーマを取り上げ、政治に対立的側面を取り戻した。多くの若者が政治に参加し、地方で市民運動と政治が多元化し、活動家たちの公式・非公式のネットワークが広がった（Stobart 2015）。既成政党がSNSの積極的活用を始めたことはもちろん、2014年欧州議会選挙後の左派指導者の世代交代もポデモスと無関係ではないだろう。社会労働党党首サンチェス（1972年生）、統一左翼所属で人民連合の代表を務めるアルベルト・ガルソン（1985年生）は、ポデモスやC’sの党首周辺とほぼ同世代である。なお、ガルソンは15-Mの活動家であった。

ラクラウ理論に立脚したポデモスのポピュリズム戦術は機能したであろうか。資源の限られた少数の大学教員らが政党アリーナに参入するうえでは、感情に訴えるナラティブや手法が必要であった。しかし「勝つ」ための戦略シフトは、ボトムアップの水平的文化を期待していた支持者を失望させた。また、反エリートの言説や体制移行による成果の否定は、既存政治勢力との連合を困難にした。さらにポピュリズムにおける集団としての「人民」の擬制は、左右の政治的分裂を経験し、地域的多元性の顕著な社会にはなじみにくい。論争的なイシューに入り込むのを避け、何のために「勝つ」のかの具体性が弱く、その意味で世論を活性化させたかは疑問である。今後は「小さな差異のナルシズム」を超え、党組織を安定化し、ローカル・サークルも含めた左派勢力の節合点として政治的光景を変化させられるかが問われよう。■

《注》

- 1 15-M (キンセ・エメ) 運動は、元仏外交官の作家ステファン・エセル著『怒れ! (Indignez-vous!)』にちなみ、メディアからスペイン語で「インディグナードス (怒れる者たち)」と名付けられた若者たちの運動として知られる。
- 2 スペイン抵当法では、住宅ローン支払い不能の際に債権者による差し押さえが容易で、かつ抵当物件を引き渡した後も債務者にローンが残るため、経済危機のなか債務者のホームレス化や自殺が社会問題になった。PAHは、住宅の差し押さえ現場に多数で押しかけて執行を実力で阻止する、空き建物を占拠し立ち退きにより家を失った人々の避難所にするなどの直接行動で知られる。
- 3 国内では、モネデーロは2000～2005年の間、イグレスィアスは2011～2012年の選挙で統一左翼の顧問を務めた経験がある。
- 4 Loomio (意思決定)、reddit (討論)、Appgree (世論調査)、Agora Voting (ネット投票)、TitanPad (グループによるテキスト作成) 等である。
- 5 2015年は、市町村、自治州、国政と選挙が目白押しの選挙イヤーであった。
- 6 2015年5月の統一地方選挙におけるポデモスの戦略は、こうした意識を反映している。市町村選挙には単独で候補を立てず、地方小政党との連合で臨む一方、自治州選挙は総選挙の前哨戦として単独で戦った。市町村選挙では、マドリード、バルセロナなど主要4都市をはじめ首位を占める躍進を見せ、PAHの中心的活動家アダ・コラウはバルセロナ市長となった。
- 7 ポデモスは国民党 (27.3%) に次ぐ2位で、社会労働党 (22.2%) を上回った。なお、世論調査会社メトロスコピアによると、2014年11月にはポデモスが首位 (27.7%) をマークした。

《参考文献》

- Del Río, Eugenio (2015a) ¿Es “populista” Podemos?, *Página Abierta*, 236, enero-febrero, 2015, 26-43.
- Del Río, Eugenio (2015b) ‘El Podemos actual.’, *Página Abierta*, 240, septiembre-octubre, 2015, 12-19.
- Errejón, Iñigo (2014) ¿Qué es ‘Podemos’?, *Le Monde Diplomatique*, 22 julio 2014.
- Iglesias, Pablo (2015a) ‘Entender Podemos’, *New Left Review* 93, May-June 2015, 9-32.
- Iglesias, Pablo (2015b) ‘España en la encrucijada’, *New Left Review* 93, May-June 2015, 33-54.
- Laclau, Ernesto (2005) *On Populist Reason*. London and New York: Verso.
- Monedero, Juan Carlos (2015) ‘Podemos: Una nueva fuerza política en España’, *Ola Financiera* 22, septiembre-diciembre 2015, 153-161; ‘Fighting the new fascism: Juan Carlos Monedero on PODEMOS, Spain’s new political force’, *The Volunteer*, Sep. 9, 2014.
- Mudde, Cas (2004) ‘The Populist Zeitgeist’, *Government and Opposition* 39(4), 541-563.
- Stobart, Luke (2015) ‘Understanding Podemos (3/3): “Commonsense” policy’, *Left Flank*. <http://left-flank.org/2015/01/02/understanding-podemos-33-commonsense-policies/>
- Torreblanca, José Ignacio (2015) *Asaltar los cielos: Podemos o la política después de la crisis*. Barcelona: Debate.
- 中島晶子 (2013) 「欧州経済危機のなかのスペイン市民社会—15-M 運動による新しい空気」、『生活経済政策』2013年8月号 (No.199)。

